



つばめ農園おひさま便り

47

安溪貴子・安溪遊地

中国山地を背景に、連なる丘の麓に並ぶ赤い屋根の家々、その足元に広がる田んぼ。今は酒米の山田錦が黄金色ですが、まもなく刈り取りが終わります。セイタカアワダチソウが、刈り終わった田んぼの畦や土手にススキの銀色の穂とともに連なっています。その向こうを、赤い機動車が山口線をゆっくり走ります。いま滋賀県で修理中のSLやまぐち号がこの夏試運転をしに戻ってきていました。来年は戻ってきてあの姿と汽笛を聴かせて欲しい。阿東高原にキンモクセイの香りがしています。

つばめ農園が化学物質にたよらずに育てているイセヒカリは、美しいお米が収穫できました。でも、収量が例年にもまして少ないので、緑肥栽培などの対応を考えているところです。これは、田んぼの草取りなどを、すっかりさぼって六月末から七月下旬にかけて、三週間ほど八重山と北海道に二人で旅に出たのも原因のひとつかもしれません。

再訪・萱野茂二風谷アイヌ資料館

この夏の北海道滞在の終わりに、平取町二風谷で一泊しました。「#萱野茂二風谷アイヌ資料館」訪問が目的でした。萱野茂さん

は、一九九四年にアイヌ民族ではじめての国会議員になった方です。

以下は、一九九二年の資料館オープン直後に訪れた時、萱野さんからうかがったお話です。萱野さんは、若い頃、物知りで面倒見がよかったお父さんの清太郎さんのところに学者が訪ねて来ていろいろなことを尋ねたりするのを快く思っていないませんでした。アイヌの大事な民具などを、タダ同然で持っていくのもしょっちゅうでした。文句をいうものだから、茂さんが山仕事に行っている間を見計らって来る学者もいました。茂さんがお父さんに厳しく止められたのは、骨や副葬品めあての「墓掘りにだけは近づくな」ということでした。

学者に盗られたものは、取り戻すんだ、取り戻せないものも自分たちでもういちど創るんだという意気込みで、先住民族文化の顕彰のために作られたのが、萱野茂アイヌ資料館だったわけです。

家を出る時に、萱野さんは、水盤のようなところで溺れている小さな甲虫をめざとくみつけて、すくいだし、動き出したのを見て、「うん、これなら生きる」と言われました。その時に出したのが、「役目なしに天の国から降ろされた生き物はひとつもないんだよ」という、

アイヌ語のことわざでした。

「学者はもち去るばかり」と聞いて、アイヌ民族の資料館に、民具を寄贈する者がいてもいいか、と思つて、わたしたちがコンゴ民主共和国で入手した仮面などを寄贈させていただいたのです。そして、教育用に大学の研究室に残してあった仮面なども、このたび追加で寄贈させていただくことにしました。

現在の資料館長で萱野茂さんの次男の萱野志朗さんが、北海道新聞の静内支局に電話

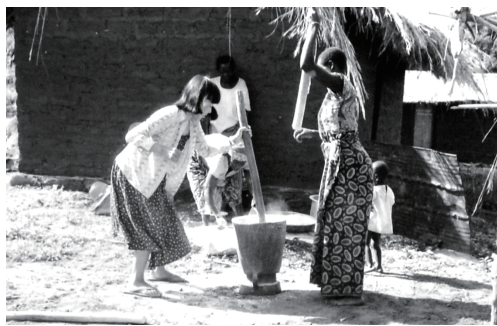


写真1/白でキャッサバをついて粉にする安溪貴子(左)
コンゴ民主共和国東部のスワリ人の村で1979年
写真2/ママたちと料理のノートのまとめをする安溪
貴子 コンゴ民主共和国中部のソングーラ人の村で
1980年 いずれも安溪遊地撮影

してくださり、杉崎萌記者が、一時間の道のりを駆けつけて取材、寄贈した仮面の写真入りの大きな記事が九月二十六日の道新日高版に掲載されたのでした (<https://anket.jp/yuji/?a=2749>)。

「調査されるといふ迷惑」の越え方

わたしたちは、こうした萱野茂さんとの出会いに大きな影響を受けました。

例えば、安溪遊地の大学での教育は、以下の三つの自省を柱にしてきました。地域にかけるフィールドワーク入門では、『#調査されるといふ迷惑』とその越え方、つまり「いばるな学生・学者」、文化人類学では沖縄やアフリカの経験を踏まえて「いばるな日本人」、そして、環境問題では、人間中心思想を暮らしの根本から問い直して行動する「いばるな人間」という三省です。

一九九五年の訪問の時、貴子は萱野茂さんにお家での食事の準備を頼まれました。冷凍庫にあった豚の腸を沖縄風の中身汁なみじにしてお出したところ「おお、こりやうめー！ くさみも全然なくて。こんな食べ方があるだねえ」と喜んでくださいました。

そんなふうに、訪れた先でなんでもお手伝

いして、喜んでいただければ、いっしょにできることも見つかるかもしれないし、「またおいで」と言っていただけかもしれないません。一九七八年からアフリカに通っている私たちですが、貴子は、アフリカ各地で、お料理の仕方を習って、それをまとめて、例えば「コンゴ盆地でのカビ発酵酒の発見」とか「#アフリカ大陸でのキャッサバの毒抜き法の拡散の歴史」といった論文を書いたりしています。現場での勉強の時に大切だったのは、下手でも女性たちの中に入れてもらって、いっしょに働いてみることに(写真1)と、レポートをまとめながら、村の女性たちの目でチェックしてもらったこと(写真2)でした。そうやって、少しずつ時間をかけて仲間だと思っただけのようになれば、つまらない間違いも減るし、予期せぬ発見につながったりもするのです。(つづく)

(あんけいたかこ・あんけいゆうじ)

✉ a@ankei.jp

🌐 <http://ankei.jp>



QRコードにスマホをかざすと、サイトが見られます。文中の#はネット検索してください。